





學習院助教授 納所辨次郎作曲

東京女子師範學校助教授 吉田信太作曲

地理教育
鐵道唱歌
第四集

大和田建樹作歌

鐵道唱歌 (四集) 納所辨次郎作曲



1. 1 5. 5 | 6. 6 5 | 3. 3 2. 1 | 2. 0 |
 シヤ シン ノ ヒ ビ キ フ エ ノ コ エ
 ミ ア グ ル ヒ キ シ ハ ス ハ ノ ダ イ
 ミ ヲ ヤ ー オ ー シ ノ セ イ シ ヲ ヲ



3. 3 2 1 | 6. 6 1 | 5. 2 2. 3 | 1. 0 |
 ミ カ ヘ ル ア ト ニ キ エ テ ユ ク
 ソ レ ニ ツ ア ツ キ テ ア キ ノ ヲ ハ
 ハ ヤ マ ド ナ カ ク キ タ ウ タ



2. 2 2. 5 | 1. 2 3 | 5 3 3. 1 | 2. 0 |
 ウ ヘ ノ ノ モ リ ノ ア サ ツ キ ヲ
 ド ー ク ヲン ヤ マ ノ ム シ ノ 子 ヲ
 ス キ ダ ス カ ミ ノ ト シ ニ マ ス



3. 4 5 3 | 2. 1 6 | 5. 2 2. 3 | 1. 0 |
 タ バ タ ハ ツ ユ モ マ ダ サ ム シ
 コ コ マ テ カ セ ヤ オ ク ル ラ シ
 コ ク カ ノ ト ミ ヲ モ オ ク ル ク ヲ

鐵道唱歌 第一集 東 海 道

鐵道唱歌 第二集 山 陽、九 州

鐵道唱歌 第三集 東 北 地 方

鐵道唱歌 第四集 北 陸 地 方

鐵道唱歌 第五集 畿 内 及 隣 邦

世界唱歌 全二冊 新 刊

鐵道唱歌 (四集) 吉田信太作曲



5. 5 5 6 | 5. 3 2 1 | 2. 2 2 2 | 2 0 |
 シ リ ノ ヒ ビ キ ー フ エ ノ コ エ
 ミ ア グ ル キ シ ハ ー ス ハ ノ ダ イ
 ミ ヨ ヤ ー オ ー ツ ノ セ イ シ ヨ ヴ



3. 3 2 1 | 6. 6 1 6 | 5. 5 5 5 | 5 0 |
 ミ カ ヘ ル ア ト ニ ー キ エ テ ユ ク
 ソ カ レ ニ ツ ア ツ キ テ ー ア キ タ ノ ヨ ハ
 ハ ヤ マ ド チ カ ク ー キ タ リ タ リ



6. 6 5 6 | 1. 1 3 3 | 2. 2 2 2 | 2 0 |
 ウ ヘ ノ ノ モ リ ノ ー ア サ ツ キ ヨ
 ド ヘ クッ ノ ヤ マ ノ ー ア シ ノ チ ナ
 ス キ ダ ス カ ミ ノ ー ト シ ニ マ ス



5. 5 3 3 | 2. 2 5 5 | 1. 1 1 1 | 1 0 |
 タ バ タ ハ ツ ユ モ ー マ ダ サ △ シ
 コ コ カ ノ カ ト セ ヤ ー オ ク ル ラ シ
 コ ク ノ ノ ト ミ モ ー オ ク ル バ ク ヴ

北陸地方

一

車輪くるまわ

のひびきのひびき 笛ふえの聲こゑ

上野

上野うえの

の森のもり

の朝あさ月つき夜よ 跡あとに消きえて行いく

二

見み

あぐる岸かしは諏訪すわの臺たい 秋あきの夜よは

田端

道みち 灌くわん

山やまの虫むしのねを 秋あきの夜よは

一

こゝまで風かぜや送おくるらん

三 見よや王子の製紙場

はや窓ちかく來りたり

すきだす紙の年にます

國家の富もいくばくぞ

四 春はさくらの飛鳥山

秋は紅葉の瀧の川

運動會の旗たて、

かける生徒のいさましき

王子

五 まもなくきたる赤羽は

品川ゆきの乗替場

目白目黒の不動へも

よれや序の道なれば

六 蕨すぐれば浦和にて

その公園は調の宮

埼玉縣の縣廳も

この地にこそは置かれたれ

赤羽

品川

蕨 浦和

七 大宮おほみやおりて八九町はつこくちやう

ゆけば氷川ひがはの公園地こうえんち
園そのは螢ほたるに名なも高たかく

宮みやは武藏むさしの一いちの宮みや

八 上尾あづき桶川おけがわ鴻かうの巢すに

近ちかき吉見よしみの百穴ひやくあなは

古代こたい穴居けつきよの人ひとのあこ

見みるも學まなびの一ひとつなり

大宮

上尾 桶川 鴻巢

九 吹上ふきあがりすぎてながめやる

熊谷くまがや土手どての花はなざかり

次郎じろう直實なほさね生うまれたる

村むらの名な今いまにつたへたり

十 深谷ふかや本庄ほんじやう神保原かみほら

左ひだりに雲くものあひだより

みゆる秩父ちちぶのふもこなる

大宮おほみやまでは馬車ばしやもあり

吹上

熊谷

深谷 本庄 神保原

十二 はや新町も倉賀野も

また、くひまに行きすぎて

今ぞ上州高崎の

繁華の町につきにける

十三 町の東北前橋へ

汽車にてゆけば十五分

群馬縣廳所在の地

上野一の大都會

新町
倉賀野

高崎

六

十三 若葉紅葉によしとささく

伊香保の温泉榛名山

高崎よりは程ちかし

避暑にも人のゆくところ

十四 みわたすかぎり青々

若葉波うつ桑畑

山のおくまで養蠶の

ひらけしさまの忙がしさ

七

十五

線路わかれて前橋の

かたにすゝめば織物こ

製絲のわざに名も高き

桐生足利とほからず

十六

高崎いで、安中の

つぎは磯部の温泉場

うしろをゆくは碓氷川

まへに立てるは妙義山

前橋

桐生
足利
飯塚
安中

磯部

十七

鉾か劍か鋸か

獅子か猛虎か荒鷲か

虚空に立てる岩のさま

石門たかく雲をつく

十八

あそに見かへる松井田の

松のみどりもかげきえて

はや横川につきにけり

おりよ人々水のみに

松井田

横川

十九 これより音にきゝぬたる

碓氷峠のアプト式

齒車つけておりのぼる

仕掛は外にたぐひなし

二十 くゞるトン子ル二十六

こもし火うすく晝くらし

いづれば天地うちはれて

顔ふく風の心地よさ

三 夏のあつさもわすれゆく

旅のたもこの軽井澤

はや信濃路のしるしさて

見ゆる淺間の夕煙

三 くだる道には追分の

原こよばるゝ廣野あり

桔梗かるかや女郎花

秋の旅路はおもしろや

軽井澤

三 御代田小諸とすぎゆけば

左ひだりに来きたる千曲川ちまがは

立科山たちしやまをながれ出て

末すえは越後えちごの海うみに入る

二四 諏訪すわの湖水こゝろをみる人は

大屋おほやをおりて和田峠わだたけ

こゆれば五里ごりの道みちぞかし

山やまには馬うまも駕籠かごもあり

御代田
小諸

田中
大屋

二五 上田うへたをあこに走りゆく

汽車きしやは坂城さかきに早はやつきぬ

川かはのあなたにながめやる

山やまは姥捨おばすて月見堂つきみだう

二六 田毎たごの月つきの風景けいけいも

見みてゆかましを秋あきならば

雲くもをいたゞく冠著かむりの

山やまはひだりにそびえたり

上田

坂城

二七 屋代篠井うちすぎて

わたる千曲と犀川の

間の土地をむかしより

川中島三人はよぶ

二八 こゝに龍虎のたゝかひを

いどみし二人の英雄も

おもへば今は夢のあこ

むせぶは水の聲ばかり

屋代
篠井

二九 長野に見ゆる大寺は

是ぞしなの、善光寺

むかし本田の善光が

ひろひし佛なりとかや

三十 こゝにこゝまるひまあらば

戸隠山にのぼり見ん

飯綱の原のほこぎす

なのる初音もきゝがてら

長野

三 豊野とよのと牟禮むれと柏原かしはばら

ゆけば田口たぐちは早越はやこ後ご

軒のきまで雪ゆきの降ふりつむと

き、し高田たかたはこ、なれや

三 雪ゆきにしるしの竿さそたて、

道みちをしへしも此このあたり

ふ、きの中なかにうめらる、

なやみはいかに冬ふゆの旅たび

吉田 豊野 牟禮 柏原 田口 關山 新井 高田

三 港みなとにぎはふ直江津なほえつに

つきて見みそむる海うみのかほ

山やまのみなれし目めには又また

沖おきの白帆しろはぞ珍めづしき

三 春日かすか新田しんでん犀潟さいかたを

すぐれば來きたる柿崎かきざきの

しぶく茶屋ちややは親鸞しんらんの

一夜ひとよ宿やどりし跡あとと聞きく

春日 新田 犀潟 柿崎

直江津

三五 鉢崎^{はちまき}すぎて米山^{こめやま}の

くがるトンチル七つ八つ

いづれば廣^{ひろ}きわたの原^{はら}

佐渡^{さど}の國^{くに}までくまもなし

三六 みわたす空^{そら}の青海川^{あそみかほ}

おりては汐^{しほ}もあみつべし

石油^{せきゆ}のいづる柏崎^{かしはさき}

これより海^{うみ}さわかれゆく

鉢崎

青海川

柏崎

三七 安田^{やすだ}北條^{きたじょう}來迎寺^{らいおうじ}

宮内^{みやうち}すぎて長岡^{ながおか}の

町^{まち}は名^なたゝる繁^{はん}花^{くわ}の地^ち

製油^{せいゆ}の烟^{けむり}そらにみつ

三八 汽車^{きしゃ}の窓^{まは}より西北^{にしきた}に

ゆく々望^{のぞ}む彌彦山^{やま}

宮^{みや}は國幣^{こくへい}中社^{ちゅうしゃ}にて

參詣^{さんげい}男女^{なんにょ}四時^{しじ}たえず

安田

北條

塚山

來迎寺

宮内

長岡

見附

帶織

三九

彌彦やひこにゆくは三條さんじょうに

おりよと人ひとはをしへたり
吾身わがみは何なにも祈いのられねど

いのるは君きみが御代みよのため

四〇

加茂かまには加茂かまの宮みやありて

木この間まの鳥居とりゐいと清きよく

矢代田やしろ驛えきの近ちかくには

金津かなづの瀧たきの音ねたかし

三條

一ノ木戸
加茂
矢代田

四一

十一年じゅういちねんの御幸みゆきの日ひ

かたじけなくも御車みくるまを

こゝめ給たまひし松まつかげは

今いまこの里さとにさかえたり

四二

もみぢは新津にひつ秋葉山あきはま

櫻さくらは龜田かめだ通つう心しん寺じ

わするな手荷物てにもの傘かさ鞆かばん

はやこゝなるぞ沼垂ぬづたは

沼垂

新津
龜田

四三 おるればわたる信濃川

かゝれる橋は萬代の

名も君が代とよきはにて

長さは四百數十間

四四 川のかなたは新潟市

舟ゆく水の便よく

わたせる橋をかぞふれば

およそ二百もありこかわ

新潟

四五 春は白山公園地

一つににほふ梅櫻

夏は涼しき日和山

鯛つる舟も目の前に

四六 汽船の煙海をそめ

商家の軒は日をおほふ

げにも五港の一つとて

戸數萬餘の大都會

四七 新潟港を舟出して

海上わづか十八里

佐渡に名高き鑛山を

見てかへらんも益あらん

四八 佐渡には真野の山ふかく

順徳院の御陵あり

松ふく風は身にしみて

袂しぼらぬ人もなし

佐渡へ
汽船に
てわた
る

四九 波路やすけく直江津に

かへりてきけば越中の

伏木にかよふ汽船あり

いざ乗りかへて渡海せん

五十 富山は越中繁華の地

こゝよりおこる鐵道は

加賀越前をつらぬきて

東海道にてあふなり

佐渡よ
り直江
津まで
直江津
より越
中まで
汽船に
てわた
る

富山

五二 薬くすりに名なある富山市とよやましは

神通川じんつうがはの東岸ひがしきし

はるかに望のぞむ立山たてやまは

直立ちよくちつ九千九百尺くせんくひやくしやく

五二 商業しやうぎやう繁華はんくわの高岡たかおかを

過ぎて福岡ふくおか石動いするぎの

次つぎに來きたるは津幡つはた驛えき

七尾ななせにゆかば乗のりかへよ

小杉

高岡

福岡

石動

津幡

五三 加賀かが越中えちうの境さかいなる

俱梨伽羅山くりがらやまは義仲よしなかが

五百ひやくの牛うしに火ひをつけて

平家へいけせめたる古戰場こせんじやう

五四 津幡つはた七尾ななせの其間そのま

すぎゆく驛えきは八九箇所はつやくかしょ

邑智おのちの瀉かたの青波あをなみに

さをさす舟ふねも羨うらやまし

・七尾

五五 七尾は能登の一都會

入海ひろく舟おほし

ちかき輪倉の温泉は

町きよらかに客たえず

五六 津幡にかへり乗りかへて

ゆけば金澤ステーション

百萬石の城下にて

さすが賑ふ町のさま

津幡

金澤

五七 名も兼六の公園は

水戸岡山と諸共に

かぞへられたる吾國の

三公園の其一つ

五八 柳みどりに花赤く

おちくる瀧の水白し

雲にそびゆる銅像は

西南役の記念碑よ

五九 第九師團も縣廳も

皆此町にあつまりて

海の外までひびきたる

その産物は九谷焼

六〇 松任美川うちすぎて

わたる手取の川上に

雪を常磐の白山は

雲まにたかく聳えたり

松任
美川

六一 小松の北におそたかく

ながる、水は安宅川

安宅の關は何くぞと

問はば嵐やこたふらん

六二 折りたく柴の動橋

武士が帯びたる大聖寺

こゝろ細呂木すぎゆけば

いろはの金津むかへたり

小松

動橋

大聖寺

細呂木

金津
新庄
森田

六三 三國港の海に入る

日野川こえて福井驛

こゝに織り出す羽二重は

輸出の高も數千萬

六四 大士呂鯖江あそこにして

武生鯖波はしりゆく

汽車は今こそ今庄に

つきて燧の城も見つ

福井

大士呂

鯖江

武生

鯖波

今庄

六五 海のながめのたぐひなき

杉津をいでてトン子ルに

入ればあやしやいつのまに

日はくれはて、暗なるぞ

六六 敦賀はげにもよき港

おりて見てこん名どころを

氣比の松原氣比の海

官幣大社氣比の宮

杉津

敦賀

六七 身を勤王にたふしたる

耕雲齋の碑をこへば

松の木かげを指さして

あれこ子供はをしへたり

六八 正田柳瀬中の郷

すぎゆく窓に仰ぎ見る

山は近江の賤わ嶽

七本鎗の名も高し

正田柳瀬中郷

六九 豊太閤の名をこめし

轡の森は木の本の

地藏と共に人ぞ知る

汽車の進みよ待てしげし

七十 縮緬産地の長濱に

いで、見わたす琵琶の海

大津にかよふ小蒸気は

煙ふきたたて人をまつ

木本

高月

長濱

七一 驛夫の聲におどろければ
眠はさめて米原に
米原

つきたる汽車の速かさ

みかへる伊吹雲ふかし

七二 おもへば汽車のできてより

狭くなりたる國の内

いでし上野の道かへて

いざやかへらん新橋に

明治三十三年十月十二日印刷
明治三十三年十月十五日發行

定價六錢 四集

轉載譯譜膽寫不許

著者 所有

作曲者 納所辨次郎
作曲者 吉田信太

著作者 大和田建樹

發行者 三木佐助

印刷者 野村宗十郎

東京賣捌

東京市牛込區東榎木町二十番地
大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番邸
東京市京橋區築地三丁目十五番地
銀座三丁目 十字屋書店
日本橋通三丁目 林平次郎
新橋竹川町 共益商社

三木書店音樂書略目

教育音樂講習會編纂文部省檢定 新編 教育唱歌集 東京音樂學校教授小山作之助編纂 大阪府師範學校教諭多梅稚編纂	新編 國民唱歌集 大阪府師範學校教諭多梅稚編纂	新編 日本唱歌 理學博士田中正平校閱田村虎藏編纂	近世 樂典教科書 大阪府女子師範學校長大村芳樹著	適用 遊戯之枝折 東京音樂學校教授山田源一郎著	圖解 ヴワイオリン指南 大阪府師範學校教諭多梅稚著	ヴワイオリン 初步
全二冊	全四冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價各十二錢	定價各金八錢	定價金十二錢	定價金四十錢	定價金六十錢	定價金五十錢	定價金四十錢